

令和3年第11回大竹市教育委員会

1 開催日時 令和3年11月26日(金)9時30分開始

2 会場 大竹市役所3階大会議室

3 出席及び欠席委員

教育長	小西啓二	出席
1番	池田良枝	出席
2番	中田美穂	出席
3番	小出哲義	出席
4番	小城和之	出席

4 出席職員

総務学事課長	貞盛倫子
総務学事課	重安千陽
	中川香代子
	瀬川隆司
	錦戸宏泰
生涯学習課長	吉村隆宏
生涯学習課	安藤好博
	山田隆司

.....
【開会時刻 9時30分】

小西教育長 定足数に達していますので、これより令和3年第11回大竹市教育委員会会議を開会します。

はじめに、議事録署名委員を指名します。議事録署名委員は、大竹市教育委員会会議規則第15条第2項の規定により、小出委員を指名します。

これより本日の日程に入ります。

日程第1「会期の決定について」を11月26日一日限りとします。これに異議ありませんか。

委員一同 異議なし。

小西教育長 異議なしと認めます。よって会期は本日一日間と決定しました。

議案第30号 学校給食納入食糧品業者選任審査要綱の一部改正について

小西教育長 日程第2「議案第30号 学校給食納入食糧品業者選任審査要綱の一部改正について」を議題とします。事務局から説明を求めます。

事務局 学校給食納入食糧品業者選任審査要綱は、学校給食用食糧品の適正かつ円滑な納入を図るために納入業者の選任について必要な事項を定めたもので、納入業者として選任を受けようとする業者は、要綱第3条第1項に掲げている申請書を提出することとしています。

この度の改正は、学校給食納入食糧品業者の選任に係る申請書類を改めるもので、日本食品標準成分表が改訂されたこと等に伴う字句の修正、併せて、押

印を求める手続きの見直しにより、押印を不要とするものです。

日本食品標準成分表につきましては、国民が日常摂取する食品の成分に関する基礎データとして利用することを目的に公表されているもので、学校給食における給食管理においてもこの成分値を利用しているものです。

まず、別記様式1から別記様式6の書類について、申請者の押印を不要とするよう改めようとするものです。

次に、別記様式5についてです。「3 原材料配合」のアレルギー品目「その他18品目」を「その他21品目」に改め、原材料配合及び栄養分析記入上の注意の「3 (3) アレルギーの品目名」の参考にある表示推奨をその他21品目に改め、「アーモンド・カシューナッツ・ごま」を加えるものです。

また、「4 栄養成分成績」の「または2015年版(七訂)」を「又は日本食品標準成分表2020年版(八訂)」に、栄養素の「レチノール当量」を「レチノール活性当量」に改めようとするものです。

なお、施行期日は、令和3年11月26日からとしています。

小西教育長 これより質疑に入ります。質疑はありませんか。

小出委員 押印省略というのは最近の流れだと思うのですが、押印は申請者の委託であるとか、申請者の意思を表示するものの一部だと思います。押印を省略して、電子認証をかけるような手続きがありますが、その場合の担保はどのようにされるのですか。ただ押印するだけではなくて、申請者の適格性をどのように担保していくのですか。

事務局 申請者の適格性に関しては、営業概要や商業登記簿本などの書類を必ず添付してもらいますので、そこで確認をしています。

小西教育長 申請書に書類を添付してもらうようになっています。他に質疑はありませんか。

委員一同 なし。

小西教育長 質疑なしと認めます。

これをもって質疑を終結します。本件を採決します。本件は原案のとおり可決することに異議ありませんか。

委員一同 異議なし。

小西教育長 異議なしと認めます。よって、本件は原案のとおり可決されました。

報告第19号 教育に関する市議会提出議案に対する意見の申出について

小西教育長 日程第3「報告第19号 教育に関する市議会提出議案に対する意見の申出について」を議題とします。事務局から説明を求めます。

事務局 令和3年11月に開会された大竹市議会臨時会及び、令和3年12月に開催される大竹市議会定例会に、議案を提出するにあたり、市長から意見を求められました。緊急やむを得ないと認め、教育長において異議ないものと申し出たので、今回の教育委員会に報告し、承認を求めるものです。

市長から意見を求められた議案は、「令和3年度大竹市一般会計補正予算第6

号」及び「令和3年度大竹市一般会計補正予算第7号」です。教育委員会に關係するものについて説明します。

「令和3年度大竹市一般会計補正予算第6号」については、新型コロナウイルス感染症防止強化策として、公民館等でオンラインによる講座の配信等を行うにあたり必要となる、WEB講座・会議システム一式の備品購入費として292万6千円を、市立図書館の図書除菌器の備品購入費として21万8千円を計上したものです。なお、これらの事業に充てる財源として、国庫補助金の新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を70万4千円、歳入として計上しました。

「令和3年度大竹市一般会計補正予算第7号」については、小学校及び中学校の学校管理費に、施設・設備の修繕料として合計113万5千円を増額するものです。これは、7月に発生した落雷の影響により故障した小方学園の施設及び設備の電気系統について取り急ぎ修繕対応する必要があったことから、今後予定する修繕料が不足する見込みとなったものです。なお、落雷被害に伴う現状復旧に要する費用については、全額が市有物件災害共済金の対象となることから、歳入として市有物件災害共済金及び解約金として同額の113万5千円を計上するものです。

体育振興費では、令和4年1月9日に予定していた第70回大竹駅伝競走大会が新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止と参加者及び競技役員の安心・安全を考慮し、再度1年延期としたため、事業に関連する歳出予算を384万4千円減額し、歳入として計上しているスポーツ大会参加料を41万5千円減額しました。

その他としては、来年度の年度初めに速やかな予算執行に当たる必要がある事業に関して、必要となる経費の債務負担行為の設定について、予算の補正をしています。

小西教育長 生涯学習課から、「令和3年度大竹市一般会計補正予算第6号」について、生涯学習推進の説明をお願いします。

事務局 WEB講座・会議システム一式について、WEB講座・会議を実施するためのノートパソコン、WEBカメラ、拡張マイク、プロジェクター、スクリーンなどの機材を、各公民館、総合市民会館に、配布をしたいと考えています。その他として、講座等を収録するためのオンライン機材、ルーターなどを購入し、それによりWEB講座などの会議も含めて、有効に使っていききたいと思います。

事務局 図書館前に設置している図書除菌器について、昨年度から紫外線ランプを使って、簡単に貸し出しの図書を除菌できる機器の要望があったので、今回この機会に購入しました。貸し出しを希望する利用者が、ウイルス等に不安がある場合は、除菌器の中に図書を入れ、45秒間紫外線ランプを照射することにより、除菌をするという使い方を想定しています。

小西教育長 質問、意見等ありますか。

池田委員 2点あります。1点目ですが、図書除菌器は、利用者が使うということですか。また、図書除菌器の大きさがわかりませんが、利用者が使うということで、

返却されたものを支所の職員が使用して元に戻すことはしないのですか。

2点目は、ICT支援業務による経費とは、人件費ですか。

事務局 図書除菌器は、幅が61センチ、高さが61センチ、奥行きが46センチというコンパクトなものです。機器内には棚が三段ついており、B5サイズの本であれば、一度に6冊まで除菌が可能になっています。基本的に、返却された本は、司書が毎回除菌をしています。それでも、小さい子どもの保護者から不安があるという声があり導入する予定です。使用方法については、図書館の中に図書除菌器を置いて、希望者が使用するというを想定しています。

事務局 ICT支援業務に関する経費は、ICT支援員配置に関する委託経費です。

小出委員 WEB講座会議システムというものは、利用者が、公民館などでどのように利用することができるのか具体的に教えてください。

事務局 新型コロナウイルス感染症が拡大する状況で、昨年頃から試行的に導入しており、玖波公民館においては、今年度は、ふるさとリレー講演会などの様子を編集し、オンラインで配信するといった取り組みもしています。

また、オンライン同時配信として、玖波公民館の学びのカフェ、玖波寄席等についても、フェイスブックやユーチューブなどで配信するという活動をすでにしています。

そういった活動をさらに拡大するに当たって、公民館同士のやりとりの方法を変えていかなければならないと思ひ、昨年度、試行として、公民館同士でWEB会議を開催しました。そういった部分を充実させていくために、今回予算を上げています。

小西教育長 社会施設のICT環境が整っていなかったもので、ICT化に取り組むために、今回補正予算を出しています。

小出委員 何らかの講座に参加している人たちが利用するようなものですね。

事務局 今までは、公民館、各種会館等で市が開催していた講座や講習会、講演会は、人が集まって行う対面式がほとんどだったので、新型コロナウイルスが拡大することによって、参加者の人数が制限されています。例えば、今まで参加人数が100人でできていたものを50人、30人にすると、受けたい人が受けることができないこともあります。来ることができない方に対して、講座の内容を撮影し、編集したものを流して、動画を見てもらうという目的の一つと、WEB会議を行うという目的の一つです。全国的にWEB会議というものが主流になってきたので、これに対応するために、公民館等で会議が行われる場合に撮影機材を使ってWEB会議システムを導入して、会議をするという形を考えています。

小城委員 歳出として、教育費が小学校、中学校それぞれあると思いますが、増額する分の修繕料の内容を教えてください。

事務局 7月に起きた落雷被害による故障があり、学校の運営に支障がないよう、当初予算を使い、優先順位が高いものから、修繕をしました。年度当初に想定していた修繕必要箇所では執行できない箇所が出ることから、今回増額補正するものです。

池田委員 ICT支援事業の業務ですが、これは今年度もあったものですか。今年度もあったのであれば、どのような成果があったのか教えてください。

事務局 今年度から、一人一台、学習用端末を導入して、タブレットを活用した授業が始まっています。ICT支援員については、年度途中から配置しています。これまでは、学校が導入時に苦労しながら、タブレットを活用できるか探りながらやってきました。ICT支援員を導入してからは、授業でのタブレットの活用において、トラブルがあったときも、担任の教員は授業を進めないといけなないので、ICT支援員にその子どもたちの支援に当たってもらうことで、学校は助かっています。あわせて、タブレットにあるアプリの活用の仕方を教員に教えてもらい、授業での活用の仕方をみんなで考え、そのマニュアル作りをして教員同士でその使い方を確認するなど、多岐に渡ってICT支援員に助けられています。そのようにして、大きな効果が上がっていくという状況にあります。

小西教育長 まだ手探りの状況ではありますが、ICT支援員を活用しながら、よりICT教育が充実していくようにしていきたいと思います。効果を上げていくことを一番考えて、充実させていきたいと思います。支援員は、一人しかいませんが、今のところは充分対応できています。

事務局 もっとICT支援員を配置して欲しいという声は上がっています。

池田委員 そうだと思います。ICT支援員がいない時間帯は、先生に不安があるだろうと思います。始めたばかりなので、来年度も同じようにやっていくしかないと思いますが、その次の年度はしっかりと成果や課題を分析して、一人でも多く配置してもらうように取り組みをしていかなければいけないと思います。

中田委員 子どもから話を聞いたところ、今のICT支援員さんは、週に2回とか多いときには2日続けて来て、適度に子供たちとも関わってくれているようです。2学期は、家に持ち帰って宿題をしたり、タブレットを活用する回数が増えてきていて、学校からも明日持って帰りますという連絡をその都度もらっていて、親もそれを意識して大事に扱うように対応できています。まだ回数は少ないのですが、来年に向かって着実に準備はできているのではないかと感じています。

池田委員 一つ気になっているのが、タブレットを使って、子ども同士のやりとりから色々な事件が起こっていると思うので、授業での補助やアプリの使い方などもあると思いますが、タブレット自体の管理というものを、しっかりとICT支援員に見てもらえればと思います。

事務局 タブレットの管理については、難しい問題だと思っています。ICT支援員については、予算の関係もあって、常駐しているわけではありません。トラブルが起きないための制限のかけ方については、ICT支援員に教えてもらって進めていきたいと思いますが、基本的には学校が、管理者パスワードで、管理者として各端末でどういったやりとりをしているかなどをその都度確認することができますので、学校の方でしっかり管理することになります。

池田委員 学校で先生が個々の端末を管理するというのは、時間が限られている中で難しい面があると思います。端末の管理がICT支援員の業務ではないとのことですが、誰かがこまめにチェックをできるような態勢をとっておかないと、担任が月に一回は確認するために時間を作るというのは難しいと

思います。他の業務もたくさんあるので、そういった体制作りを各学校でこれから強化をしてもらえたらと思います。

小西教育長 体制を作ることで、効率よく管理ができるように対策していく必要があるのかなと思いました。

事務局 校務分掌の中でICT担当の教員を決めておきまして、教育委員会も教員との連携を強化しています。校長が管理者で、校長の指示の元で教員がその管理をしている状況ですが、技術も変わっていき、教育委員会が分かっていないこともあるので、今後とも管理をしっかりしていかないといけないと思っています。今後も引き続き、ICT支援員の力を借りながら管理をしていきたいと思っています。

小西教育長 コロナ禍によって大きく学校現場も変わってきて、GIGAスクール構想が今年度にスタートしていますが、ウィズコロナで、今後どのような形で進めていくかが教育委員会の大きな役目だと思っています。なかなか昔のような形には戻れないのではないかなと思いますし、効果を上げるために話し合っていきたいと思っています。

ICTの導入について学校側もいろいろと進めています。学習発表会で校長から話を聞いたところ、子どもたちにとっては、対面で来客がいて、そこで発表するというのが、やっぱり一番ですねということをおっしゃっていました。子どもの意欲の面で、色々なことに子どもたちが取り組み、生で観客、保護者を前にすると違うということでした。学校側も工夫しながらですが、そういう舞台を準備しなくてはならないと思いました。私自身も学習発表会を玖波、大竹、小方と見て、どうにかそのような取り組みができたかと思っています。

池田委員 私たち教育委員はなかなか学校に行くことが難しいので、そういう映像も見せてもらえたらと思います。この二年間学校に行くことができてないこともあって、子どもたちの様子がどうなっているのかなというのを教育委員会として見てみたいです。ICTの活動などの子どもたちの様子を見ることができるような場を企画してもらいたいです。

小西教育長 実際現場に行くのはこの二年間難しかったと思いますので、そのようにできればと思います。

小西教育長 他に質疑はありませんか。

委員一同 なし。

小西教育長 質疑なしと認めます。

これをもって質疑を終結します。本件は報告事項です。報告のとおり承認することに異議ありませんか。

委員一同 異議なし。

小西教育長 異議なしと認めます。よって、本件は報告のとおり承認されました。

以上をもって、本日の日程は全て終了しました。

これにて、令和3年第11回大竹市教育委員会会議を閉会いたします。

【閉会時刻 10時13分】

.....